



写真1：YOU&MEインターナショナルスクール

NGO紹介

NPO法人YOU&MEファミリー

教育こそが、未来をつくる

NPO法人YOU&MEファミリーが Bangladesh のガジプール県で2007年に設立し支援しているYOU&MEインターナショナルスクール（写真1）は、「教育こそが、未来をつくる」をスローガンとして主に貧困層を対象に、子どもの多様性を認め自分らしく生きられる教育を目指した活動を行っています。そして、生徒が楽しみながら個性を伸ばす日本の教育を取り入れた独自の教育として、生徒会やクラブ活動、学校清掃、独自の行事、保護者会、現地病院連携などを展開しています。

Bangladesh では児童婚が根強い社会的問題となっています。インターナショナルスクールでも児童婚を強制させられた女子生徒がいたことを契機に、YOU&MEファミリーは、子ども達に経済的社会的に自立した人生を歩んでほしいと、職業訓練を兼ねたクラブ活動を立ち上げ運営しています。洋裁の技術を学べる「洋裁クラブ」（写真2）とパソコンの技術を学べる「パソコンクラブ」（写真4）です。

ゆうちょ財団では、2021年、2022年、2024年の3カ年にわたりこの活動を支援してきました。2024年度は、これら2つのクラブ活動から得られる収益が経費を上回る黒字化を目指しています。

ゆうちょ財団では、このたび、同団体の代表理事の玉木由美さんにこうした活動についてお話を伺いました。

—— **Bangladeshで教育支援活動を開始されたきっかけや、特にガジプール県に焦点を当てた理由について、お聞かせいただけますか。**

玉木さん：きっかけは、私自身の個人的な経験からです。ガンという大きな病気をして、人生ってなんだろうって考えさせられたんです。そんな時、支えてくれていた夫が亡くなってしまいました。彼は国際協力分野に関心があり、特に Bangladeshに注目していました。私も英語の教師だったから、教育で何かできないかって考えたんです。

そして2006年、仕事を辞めて Bangladeshに渡る決心をしました。現地ではさまざまな出会いがありましたが、その中でも特に大きな出会いは、ガジプール県に住むワハブ牧師夫妻との出会いでした。ご主人は地域の土地を購入し、活動の拠点を作っておられ、奥様のリナさんはその活動を支える存在でした。この地域には学校がなく、私はリナさんと学校を作ることを決意しました。私たちは未来を創ることを目標に、小さな学校からスタートしました。

設立当初は現地の協力者や友人たちと一緒に運営を進め、日本の友人や知り合いに支援を呼びかけた結果、必要な資金が集まりました。2007年に学校自体は開校したものの、施設はまだ整っておらず、2008年ようやく校舎が建設されました。その後、運営は順調に進み、多くの日本人の支援者が現地を訪れ、活動に関心を寄せてくださるようになり、2015年にNPO法人を設立しました。地域の人々との信頼関係が深まり、今では学校が地域の一部として認められるようになりました。



写真3：スタッフミーティングの様子
(左から3人目が玉木さん)

—— **YOU&MEインターナショナルスクールではどのような日本の教育の特徴を取り入れているのでしょうか。**

玉木さん：私は Bangladeshに一人で渡った当初、英語教師の経験を活かして、現地の学校でボランティアで授業を行いました。現地では全国統一試験により成績で合格することが教育の主目的とみなされる風潮があり、違和感を持ちました。そして、日本を離れて初めて、日本の教育のよさに気づかされました。日本では、生徒一人ひとりが自分の個性や才能を伸ばし、互いを尊重し合うことを大切にしています。クラブ活動、委員会活動、そして清掃活動など、様々な活動を通して、生徒たちは社会性を学び、成長していきます。

Bangladeshの学校でも、これらの活動を導入してみました。最初は、特に清掃活動について、保護者の方々から強い抵抗がありました。「なぜ子どもが掃除をしなければならないのか?」「勉強することが一番大切だ」という意見が多く聞かれました。しかし、私は、清掃活動を通して、協調性や責任感を学ぶことができることを説明し続けました。

結果的に、生徒や保護者の方々も、これらの活動の大切さを理解し、積極的に参加してくれるようになりました。これは、私にとって大きな喜びです。



写真2：洋裁クラブ



写真4：パソコンクラブ

——バングラデシュでは、2024年夏頃に反政府デモなどの混乱で治安が悪化しましたが、こうした治安の悪化により団体の活動には何か影響が及びましたか。

玉木さん:ご存知のように、日本のニュースでも報道されたように、2024年8月にバングラデシュでは大きな混乱が起きました。この背景には、主に退役軍人の家族に公務員採用の特別枠を復活させたことへの反発がありました。6月から学生を中心にデモが頻発して、次第に激化していきました。最終的に政府は崩壊し、首相は亡命を余儀なくされました。現在も治安は不安定な状態が続いており、警察機能が麻痺しているため、軍が治安維持にあたっています。このような状況下では、学校も大きな影響を受けています。

7月から9月にかけては、多くの学校が閉鎖されたり、授業が中断されたりしました。これは、治安の悪さだけでなく、保護者たちの不安感も大きく影響しているためです。特に、縫製工場が多い土地柄、多くの保護者が働く工場が休業に追い込まれたことで、家庭環境も不安定になり、子どもたちの学習意欲も低下しました。この混乱により、全国统一試験も延期されるなど、教育現場は大きな打撃を受けています。クラブ活動もその影響を受けて滞ってしまいました。子どもたちは、学業だけでなく、心の安定も失いつつあり、長期的な影響が懸念されます。

——2024年度の活動では、パソコンクラスや洋裁クラスというクラブ活動の一環で得られる収入からこれらのクラブの経費を賄おうとされていますが、黒字化の見通しはどのような見込みですか。

玉木さん:昨年の6月から8月の間は、治安の悪化の影響でクラブ活動はできない状況でしたが、この時期は雨季でもあり、商品が売れる時期ではなかったため、もともと販売目標をほとんどゼロに設定しておりました。そのため、結果的にはプロジェクト全体への大きな影響は避けることができました。

この収益化計画は、2023年に正式に開始し、5年で黒字化を目指しています。今年度は2年目に当たり、計画では4年目から黒字に転じ、5年目には安定した黒字化を達成する見込みです。そのため、品質管理を徹底し、現地の需要に応じた事業展開を行っています。

——クラブ活動と現地の地域社会との連携はどのように行われていますか。

玉木さん:卒業生たちがこのプロジェクトに積極的に関わるようになり、ビジネスの運営に参加してくれる事例も増えています。昨年11月には、ある女性がビジネススタッフとして参加したいという意志を示し、現在はボランティアとして活動を手伝ってくれています。このように、地域内での認知度と協力関係が徐々に広がっています。職業訓練クラスについては、卒業生が縫製工場に就職するケースが増え、個人での事業展開を希望する者もいます。これにより、地域社会への貢献が進み、地元の人々からの信頼も深まっています。今後は、さらに地域との連携を強化し、持続可能なビジネスモデルを構築していきたいと考えています。



写真5：生徒の制服販売の採寸の様子

——今後5年、10年のスパンでYOU&MEファミリーが目指す目標や展望を教えてください。特に、どのようにして現地のコミュニティ全体にさらに貢献していく予定ですか。

玉木さん：リナさんと学校を作ったときの当初の「教育こそが未来をつくる」、つまり、教育こそが、個人、地域、国、そして世界の未来を切り開くものだという考えは今も変わらず、これからも変えないでやって行きたいと思えます。5年、10年後、さらにその先を見据えた支援を続けていきたいと思っています。

そして、子どもたちが自分らしく人生をいきいきと過ごす基礎を学校の中で作って欲しいと願っています。そのために職業訓練クラスを行っているのですが、現在、私たちは口コミを中心に製作と販売を行っています。これが軌道にのった際には、店舗を持ち、全国的な販売活動を展開したいと考えています。持続可能なビジネスモデルを目指しており、それが本格化すれば地域の希望の光となり、さらなる地域活性化につながると信じています。

——最後に、読者の皆様へのメッセージをお伝えください。

玉木さん：これまで多くのご支援をいただき、心より感謝申し上げます。当初、女子教育の必要性を痛感し、14歳で結婚を余儀なくされる女子たちを救うために、職業訓練クラスを2020年に立ち上げました。その際、ゆうちょ財団をはじめ皆様のご支援をいただき、現在では収益化を目指したビジネス活動へと発展しています。これがなければ、インターナショナルスクールや日本のNPO法人YOU&MEファミリーの活動も継続できなかつたと感じています。

現地の自立を実現するには、まだ多くの時間と努力が必要です。引き続き、長期的な視点で温かいご支援、ご協力をいただけますと幸いです。これからもどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

——玉木さん、どうもありがとうございました。



写真6：卒業生による募金箱活動
(右から4人目が玉木さん)

2024年度国際協力報告会(オンライン講演会)の開催について

ゆうちょ財団では、助成を受けて日本国内・国外で活動を実施しているNGO・NPOの活動の状況及び現地の様子をご報告いただき、関係の皆様への国際ボランティア活動への理解を深めることを目的に、毎年、国際協力報告会を開催しています。2024年度は、以下の日時・内容で実施します。**参加ご希望の方は、ご氏名・ご所属を電子メールで2025年1月24日(金)までに事務局に送付してください。**折り返し、事務局より受け付けのメールを返信いたします。

1. **開催日時:2025年1月30日(木) 14:00～15:30** 形式：**オンライン(Microsoft Teams)**

2. 内容

講演①:「地域に住む外国人及び外国にルーツを持つ人々への支援活動」(多文化共生推進活動)

講師: 特定非営利活動法人 国際交流の会とよなか

葛西 芙紗 様、中田 肇代 様、石墨 方子 様

講演②:「地方医療における医療情報管理を通じた医療の質向上支援」(活動国:ネパール)

講師: 特定非営利活動法人 ASHA

任 喜史 様、 稗田 啓介 様

3. 申込先: ゆうちょ財団事務局 電子メール: vlcenterアットyu-cho-f.jp (アットを@に変えて下さい)

2025年度NGO海外援助活動・多文化共生推進活動 助成の募集について

ゆうちょ財団は、多文化共生の推進に寄与する活動を行う民間団体や海外で活動を行っている日本のNGO団体に対して、活動経費の一部を助成しています。助成件数は多文化共生推進活動助成で5件程度、NGO海外援助活動助成で5件程度、助成の上限額は1件100万円(共通)です。

なお、NGO海外援助活動助成においては、これまで「旧国際ボランティア貯金」の寄附金配分又は「JICA基金」の支援を受けた事業を行った団体を対象に助成を行ってきましたが、2025年度活動の募集から、過去にこのような事業を行った団体でなくても助成を受けられるよう対象を拡大しました。

2025年度助成については、2024年10月1日～10月31日の間の募集を実施したところ、NGO海外援助活動助成17件、多文化共生推進活動助成5件の申請がありました。採択団体は2月に決定する予定です。

編集後記

今回のNGO活動紹介では、2024年度の助成団体としてバングラデシュで活動する「NPO法人 YOU&MEファミリー」の取組みを紹介しました。代表理事の玉木さんから「教育こそが未来をつくる」という強い信念のもと、学校教育にクラブ活動という日本的な要素を導入した職業訓練の取組みについて、力強く語っていただきました。また、TOPICSでは「2024年度国際協力報告会(オンライン講演会)の開催について」と「2025年度NGO海外援助活動・多文化共生推進活動助成の募集について」とレポートしました。国際協力報告会では今回から多文化共生推進活動についての報告が加わります。

当財団は本年5月に市ヶ谷のビルに移転してから、初めての年始を迎えました。本年もよろしくお願い申し上げます。